



人権啓発標語、

作文の入選作を決定

岩美町では、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題の解決を図るための啓発活動の一環として毎年、人権啓発標語及び作文を募集しています。今年は、作文の部で47点、標語の部で930点の応募があり、選考会の結果、次の作文7点、標語105点の入選作を決定しました。差別やいじめなど、日常生活や学校の中で考えるきっかけとなればと思います。なお、作文・標語作品集を各学校、中央公民館等にも配布しますので機会のおり是非ご覧ください。

作文の部



【特選】

「人権とはなんですか」

岩美西小 六年 澤 鈴彩

「人権とはなんですか。」
 そう聞かれたらみなさんは何と答えられますか。
 二年前の私なら全然答えることができなかったと思います。しかし、今の私なら答えることができます。その人権について学び始めたのは一年前です。五年生のときは、十才のときにハンセン病にかかり、

たくさんの方から差別されたという方にお話を聞きました。そのころの私は『今の私たちの生活は恵まれている。こんな恵まれた生活が当たり前になってはいけません。』と感じていました。

六年生になってからは、広島で被爆体験をされた方にお話を聞きました。その後、社会科の学習で太平洋戦争についてくわしく勉強しました。私が歴史学習の中で一番印象に残っているのは「戦争は人の判断をおかしくする。」ということだと思います。今の平和な日本にそんなおそろしい時代があったと思うと、すごくこわい気持ちになります。私は、人権の大切さをますます感じてきました。その後の学習で、「今の日本の問題点は何か。」というテーマで討論をしました。私が問題だと思った事は、ハンセン病にかかった人たちへの偏見や差別問題です。五年生の時に実際にお話を聞いていたので、自分の意見を述べました。友達が、

「いい意見だったなあ。」
 と言ってくれてうれしい気持ちになりました。人権の大切さについて考える学習を通して、あと一つ考えさせられることがあります。それはいじめ問題です。新聞やニュースで最近よく報じられているいじめによって、自殺まで起きてしまっているということとです。私の学校生活をじっくり振り返ってみると、「私のとった言動で友達が悲しい気持ちになっていないかな。」と反省しなければいけないこともあり

ました。
 はじめに書いたように、「人権とはなんですか。」と聞かれたら、
 「人は生まれながらみんな平等で自由である。」と私は言います。まだまだこの考えは的確ではないので、中学生になっても人権についてさらにくわしく学んでいきたいです。この二年間、私の心も、クラスの子みんなの心も成長したと思います。一人ひとり

の人権を大切にするという大きな目標に向けて、あらゆることを実行していくことは難しいと思いますが、一人ひとりが心がけていけば幸せな生活がきっとやってくると思います。最後にみなさん改めて考えてみてください。
 「あなたにとって人権とはなんですか。」

【特選】

「伊谷周一さんのお話を聞いて」

岩美西小 六年 濱田 美聡

私は、戦争についておばあさんに聞いたり、本を読んだりしてやってはいけないものだと思っていました。そして今回、被爆体験者である伊谷周一さんのお話を聞き、改めてその思いを強く持ちました。

伊谷さんは、原爆が投下された八月六日原爆が落ちた場所から約1km離れた所に友達といたそうです。まぶしいと思った瞬間、体が吹き飛ばされ気づいた時には何かの建物の下敷きになっていたそうです。やっとの思いで、出てみると周りは火の海でした。建物の下敷きになっている友達もいたけれど火の勢いが強く助けることができずに、その場から逃げたことを今でも後悔しているとお話されました。また、怖いのは火だけではなく、そのときは伊谷さんも気づいていなかったのですが、爆発の時放射能が体をつきぬけ、また鳥取に帰る途中のどが渴いて飲んだ雨から放射能が体の中に入り、血液中の白血球が減って重い病気にかかってしまったのだそうです。その時、友達からの輸血を受け命が助かり、改めて友達の大切さに気づいたそうです。

私は、伊谷さんのお話を聞いて、二度と戦争を起こしてはいけないと感じたことはもちろん、これほど怖いとわかっている放射能の問題が、東日本大震災の原発問題に見られるように、今の日本の大きな課題となり、もう一度真剣に考えていかなければいけないのだと思いました。

また、友達の大切さについても改めて学ぶことができました。友達と話したり、遊んだりすることは今まで当たり前なことだと思っていました。それが